

将来像

コーディネーターから

「ホールは小美玉の文化を育てる核となる」

2町1村の合併（2006年）で生まれた小美玉市の3つの公共ホール（アピオス、みの〜れ、コスモス）は、「第1次小美玉市まるごと文化ホール計画」（2012～2021年）のもと、住民のみなさんを核とする熱いサポートに支えられながら、10年間成長を続けました。まさに、「根を張ってこそ花が咲く」という理念が、着実に生かされ実践されてきたのです。

今日の社会の価値観は、日本の発展を支えてきた高度成長や高度消費の成熟に伴い、「モノ造り」から「コト育て」へと大きく変化しています。

このような「コト育て」事業の先駆的試みとして推進されてきた小美玉市まるごと文化ホール計画が11年目を迎えるにあたり、新たな10年計画が検討され、住民のプロジェクトチームが主体となって、ファシリテーター（市職員）、そして担当職員のみなさんの協働により立案されました。第1次の理念や方策を踏襲しつつ、理念（ミッション、ビジョン）、戦略、方策、活動計画について一つ一つ見直し、より具体的で推進力の高い計画となりました。そして、3つのホールがそれぞれに特長や個性を発揮しながら、密に連携しあって、小美玉市の文化を育てる核となることをめざしています。

小美玉市のホールには、県内外から多くの視察者が訪れています。それは、「ニューノーマル」とか「新しい日常」と呼ばれるような、これからの社会の“あるべき姿”を可視化してきたからでしょう。コミュニティの分断化が危惧される現代社会の中で、ホールは、住民のみなさんが集い活動し合う第3の場（サードプレイス）となっています。生きがいや地域の味わいを醸成していくためには、刻々と変化する生活環境や科学技術の進展などへの対応だけでなく、地域に潜む文化の力に着目し、それを継承し高め蓄積していく豊かな感性力が必要であり、それを育てる場が求められるのです。

多彩なシアター文化が息づく場としてのホールは、一朝一夕に造れるものではありません。これからも小美玉市のかけがえのない魅力・個性として、大事に育てていただきたいと心から祈念します。



コーディネーター

蓮見 孝 先生

博士（デザイン学）
筑波大学・札幌市立大学名誉教授
HAK ソシオデザイン研究室 室長

1948年 神奈川県生まれ
1971年 東京教育大学教育学部芸術学科卒
1971～1991年 日産自動車（株）デザインセンター
（第一モデル課長、エクステリアスタジオ代表
チーフデザイナー等歴任／1976年 ロイヤル・
カレッジ・オブ・アート校社命留学）
1991～2012年 筑波大学芸術学系（2000年～教授）
2012～2018年 札幌市立大学 理事長・学長
1995～2012年 グッドデザイン賞審査員
2005～現在 いばらきデザインセレクション審査員
現：（公財）茨城県開発公社 理事、茨城県デザイン
政策アドバイザー、東海旅客鉄道 嘱託、他